

## DHC-6 の思い出 その 1 初の自費フライト

荒岡 衛

私が最初に自費で飛行機旅行をしたのは 1975 年 7 月 19 日、日本近距離航空の新潟—佐渡線だった。当時入社二年目、高校時代の友人とどこかへ一緒に旅行に行こうと相談し、小型機が飛んでいたのが佐渡に決めた。よって単に飛行機に乗ることだけが目的ではなく、いわゆる観光もした。有給休暇の使用をなるべく少なくしたいので土曜出発を選択したが、東京-新潟の空路は毎日運航ではなく、土曜は運航されていなかった。上越新幹線はまだ開通していなかったから特急「とき」で新潟まで行った。

小型機というのは DHC-6、デ・ハビランド・カナダ（現ボンバルディア）社製の双発プロペラ機で愛称はツイン・オッター、1965 年に初期型が生産されて以降現在も発展型が製造されている長寿命機で、日本では日本近距離航空（後のエア・ニッポン、エア・北海道）と南西航空（琉球エアコミュータ）が使用していた。最近では第一航空が発展型を使っている。ちなみにオッターとは「かわうそ」のことで、先行して製作された単発プロペラ機 DHC-3 は「オッター」あるいは「ターボ・オッター」と呼ばれている。

DHC-6 の座席配列は 1 列 3 人で 19 人の客を乗せる。定員 20 人未満の機体なら客室乗務員は不要であるが、この時は乗っていた。それほど混んでいなかったのと、席が後の CA 席と近かったので搭乗中にいろいろ話をきいた。私は高校時代に気象観測をやっていたから雲の種類をよく知っていたので話が弾んだ。新潟の空は冬場気流が荒れるので結構揺れが激しいとか、そんな時に一度乗ってみたいといったら是非乗りにきてくださいと言われた。その後 DHC-6 には何回も搭乗したが冬場の佐渡線を体験するという約束は果たしていない。日本近距離航空はその後全日空系列に入り、新潟—佐渡線からは撤退、機体は北海道の函館をベースとして運用された。

23 日の帰路も同じ機体だった。新潟から東京へは東亜国内航空の DC 9 で戻った。